

ふるさとに誇りをもち瞳輝く島の子

近江八幡市立島小学校

校区は、国の重要文化的景観の第1号として選ばれた水郷の景色が広がる、豊かな自然や史跡に恵まれた地域である。また、地域をあげて「ほんがら松明」やヨシ原の保存に努めるなど伝統の継承にも熱心である。そのような、地域の人や文化、自然環境といった豊かな資源を大いに活用しながら、本校の学校目標である「ふるさとに誇りをもち、瞳輝く島の子」をめざし地域とともに「ふるさと学習」を進めている。

中でも、2年生の「^{ごんざ}権座」での農業体験、3年生の「ヨシとわたしたちの暮らし」、4年生の「菜の花エコプロジェクト」の学習は、複数の教科を組み合わせながら、長いスパンで年間を通し行う学習である。これらの学習をとおり、地域の人や文化と出会い、身近な自然の恵みを生活に取り入れ、暮らしを豊かにしてきた先人の知恵に学ぶとともに、ふるさとへの誇りや愛着を育んでくれることを願っている。

■ 権座での農業体験

毎年2年生は、校区にある権座へ船で渡り、農業体験を行っている。権座とは、日本ユネスコのプロジェクト未来遺産に指定されている、西の湖に浮かぶ島状の田畑である。子どもたちは、権座・水郷を守り育てる会の方々とともにサツマイモを植えて育て、収穫する喜びを味わうとともに、権座、水郷などふるさとの豊かな自然や美しい景色を体感している。



また、収穫したサツマイモを使っていろいろな料理に挑戦したり、イモ掘りの体験を絵や作文に表現したり、芋版を使ってカレンダーを作成するなど、楽しい学習活動へと発展させている。

■ ヨシと私たちの暮らし

3年生では、1年間を通してヨシを題材に学習を進めている。春には、ヨシ原で採った若いヨシの葉で餅を巻く「ちまき作り」を体験する。子どもたちにとって餅をヨシの葉で包み、イグサで巻く作業は難しいが、地域の方の熟練の手つきをまねし、何度も教えてもらいながら巻き上げる。蒸し器で蒸すとヨシの香がほんのり漂う上品な甘さのちまきができあがる。子どもたちは、地域で春先に食べられてきた伝統の味と香りをおいしくいただいている。



その後、ヨシの利用法やヨシ原の保全について調べ、ヨシすだれやヨシのランタン作りへと学習を広げていく。

冬には、ヨシ原でヨシ刈りを体験し、刈り取ったヨシを材料に、4年生が、2年間の学習の集大成として、ヨシと菜種を使った松明を作る体験を地域の方を講師に招いて実施している。

